

# 「地産地消と食育、生物多様性に関するアンケート」の実施結果報告

実施所属：農林水産部フードイノベーション課・みどり共生推進課

「地産地消と食育、生物多様性に関するアンケート」の実績結果を次のとおり報告します。  
アンケートにご協力くださいました回答者の皆さんに厚く御礼を申し上げます。  
アンケートの結果につきましては、今後の業務の参考とさせていただきます。

## アンケート概要

- (1) 実施期間 令和元年4月24日(水)から5月15日(水)まで
- (2) 対象者数 1,076人
- (3) 回答数 807人
- (4) 回答率 75%

## 年代別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
人数	4人	20人	175人	239人	174人	141人	54人
割合	0.4%	2.5%	21.7%	29.6%	21.6%	17.4%	6.8%

## 地域別

	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人数	394人	226人	97人	68人	22人
割合	48.8%	28.1%	12.0%	8.4%	2.7%

- ※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡
- 中勢：津市、松阪市、多気郡
- 伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡
- 伊賀：名張市、伊賀市
- 東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

### Q1 三重県産食品の購入について

あなたは、食品を購入する場合に、三重県産の食品を意識して購入していますか。  
あてはまるものを1つ選んでください。

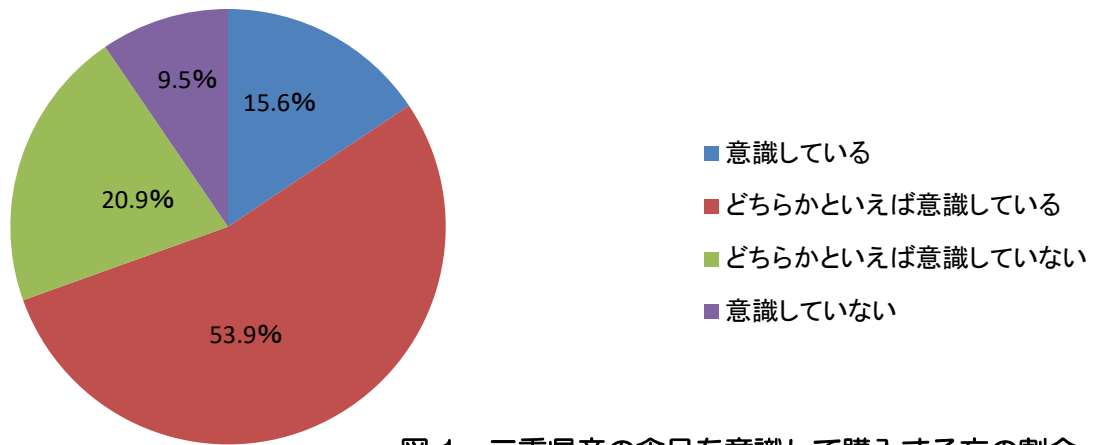


図1 三重県産の食品を意識して購入する方の割合

食品を購入する場合に、三重県産を「意識している」、「どちらかといえば意識している」と回答された方は合わせて561名（69.5%）でした。

## Q2 生鮮物に対する満足度について1

あなたは、三重県産の生鮮物（青果物、鮮魚、米、精肉等）に対してどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

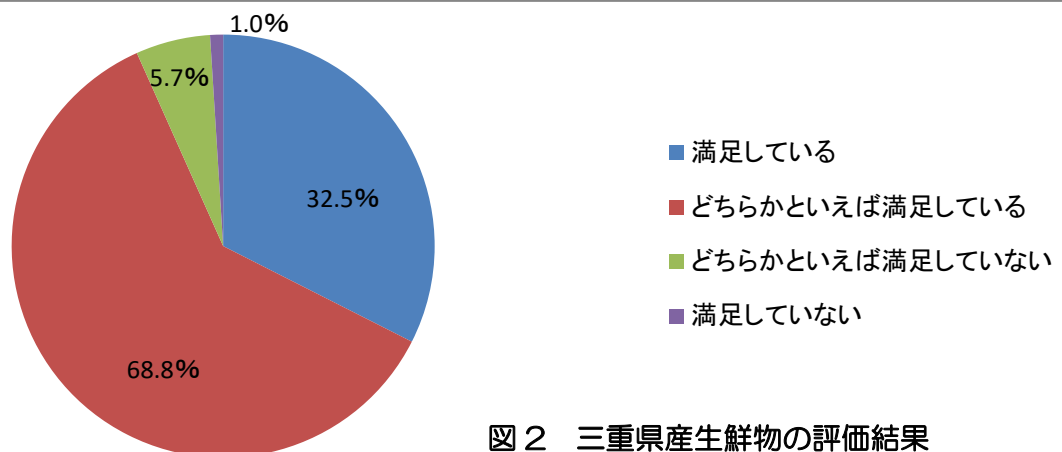


図2 三重県産生鮮物の評価結果

三重県産の生鮮物について「満足している」と回答された方は262名（32.5%）、「どちらかといえば満足している」と回答された方は491名（60.8%）で、合わせると753名（93.3%）にのぼり、多くの方が、三重県産の生鮮物に満足していることがわかりました。

## Q3 生鮮物に対する満足度について2

Q2であなたがそう感じた理由を3つまで選んでください。

① 「満足している」、「どちらかと言えば満足している」を選択された方（753人）の回答

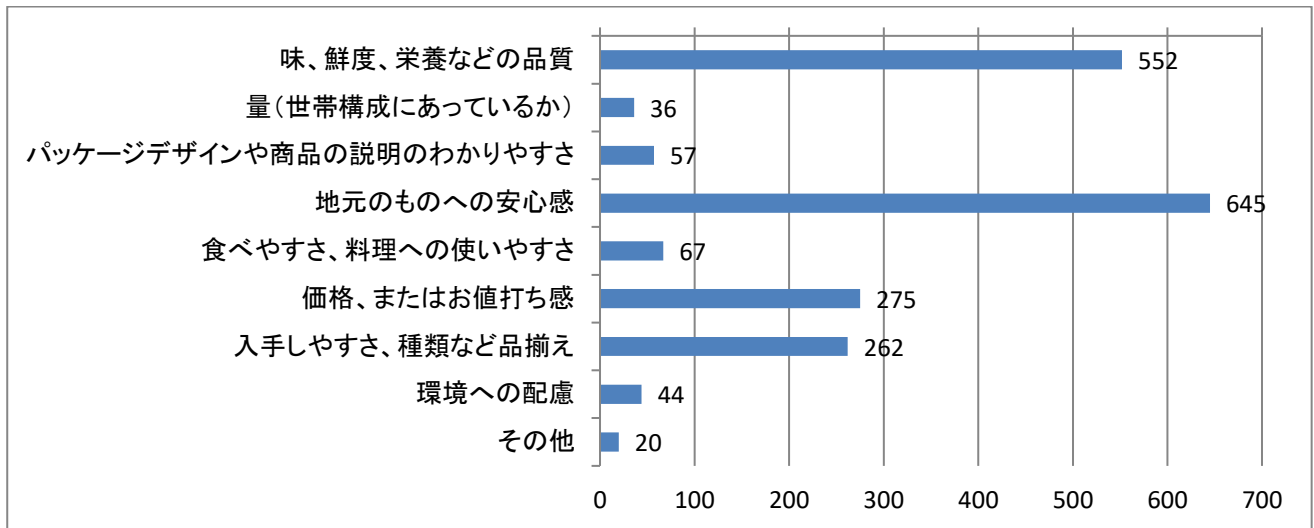


図3 Q2で「満足している」「どちらかといえば満足している」を選択された方の内容

「満足している」、「どちらかといえば満足している」と感じた理由として「地元のものへの安心感」を選択された方は645人、「味、鮮度、栄養などの品質」を選択された方は552人で、これら2つが主な理由として選ばれていました。

② 「満足していない」、「どちらかといえば満足していない」を選択された方（54人）の回答

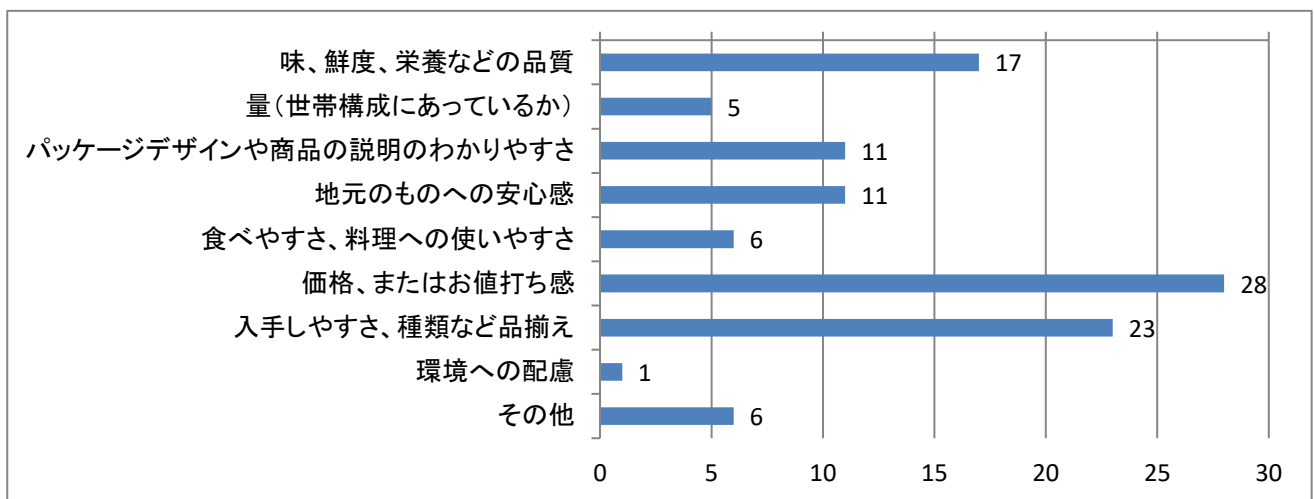


図4 Q2で「満足していない」「どちらかといえば満足していない」を選択された方の内容

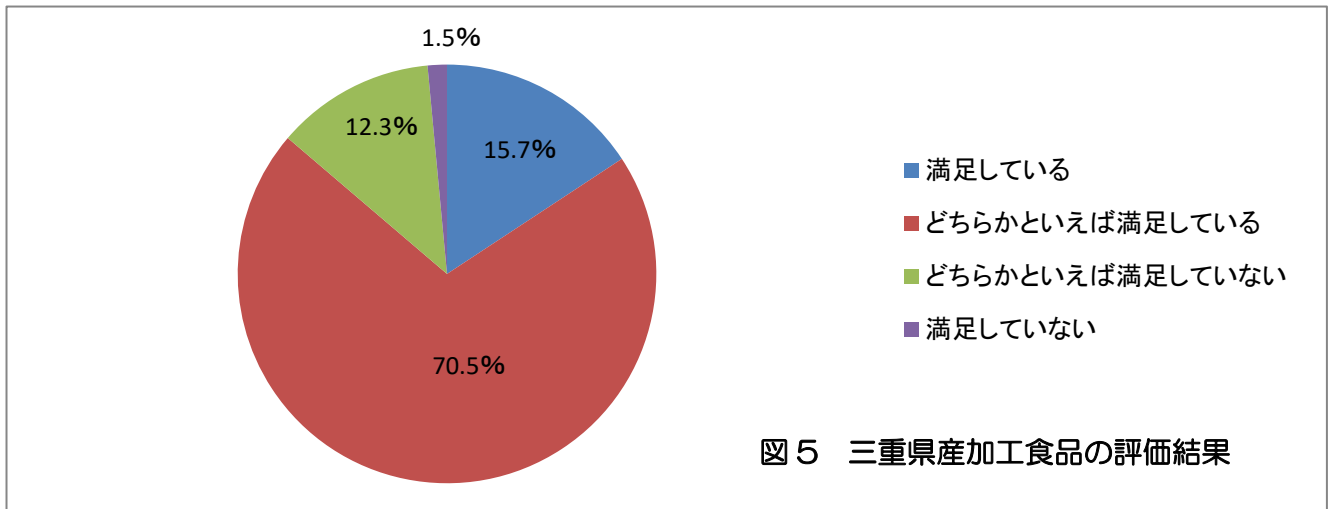
「満足していない」、「どちらかといえば満足していない」と感じた理由として、「価格、またはお値打ち感」（に対して満足していない、どちらかといえば満足していない）を選択された方は28人で、「入手しやすさ、種類など品揃え」（に対して満足していない、どちらかといえば満足していない）を選択された方は23人、これら2つが主な理由として選ばれていました。

#### Q4 加工食品に対する満足度について 1

あなたは、三重県産の加工食品に対してどのように感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

三重県産の加工食品について「満足している」と回答された方は127名（15.7%）、「どちらかとい

えば満足している」と回答された方は569名（70.5%）でした。



## Q5 加工食品に対する満足度について2

Q4 であなたがそう感じた理由を3つまで選んでください。

### ① 「満足している」、「どちらかといえば満足している」を選択された方（696人）の回答

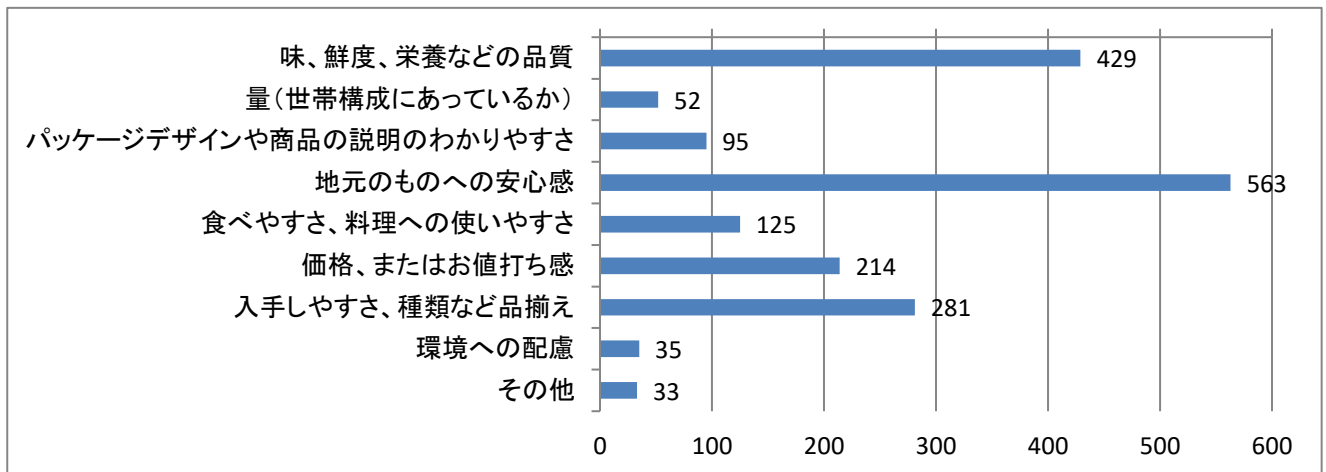


図6 Q4で「満足している」「どちらかといえば満足している」を選択された方の内容

理由として「地元のものへの安心感」を選択された方は563人、「味、鮮度、栄養などの品質」を選択された方は429人で、生鮮物と似た傾向が見られました。また、「その他」で、「地産地消を意識している」、「地域特有の食品」、「産地の土地柄が分かる」などの意見がありました。

### ② 「満足していない」、「どちらかといえば満足していない」を選択された方（111人）の回答

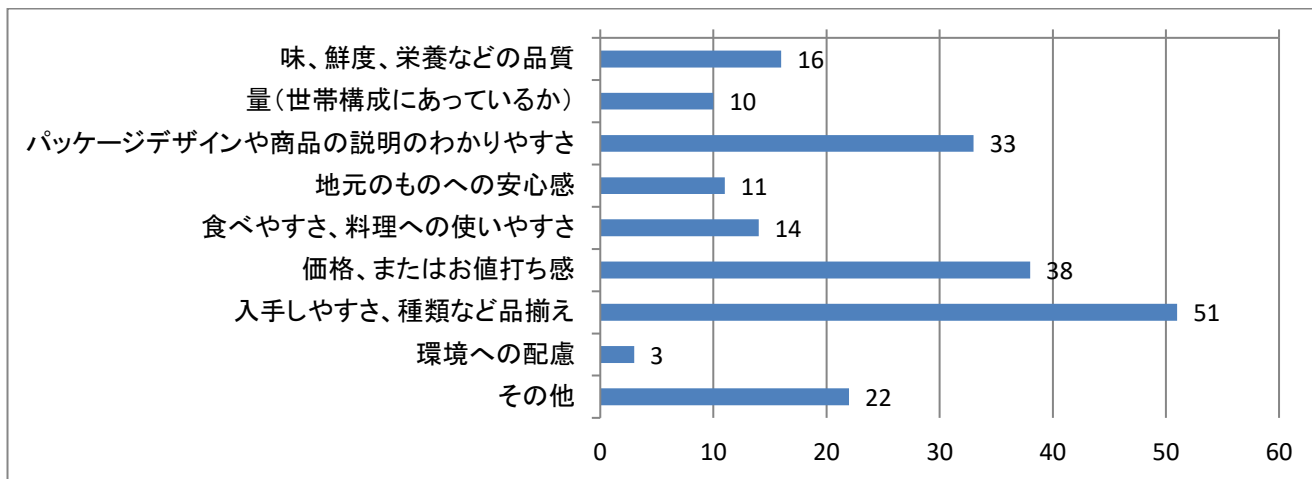


図7 Q4で「満足していない」「どちらかといえば満足していない」を選択された方の内容

理由として「入手しやすさ、種類など品揃え」(に対して満足していない、どちらかといえば満足していない)を選択された方は51人、「価格、またはお値打ち感」(に対して満足していない、どちらかといえば満足していない)を選択された方は38人でした。また、「その他」で、「三重県産の加工品をあまり知らない(見かけない)」、「もっとPRが必要、地味な感じもする」などの意見がありました。

## Q6 食育への関心について

※「食育」についてお聞きします。

あなたは、「食育」に関心がありますか。それとも関心がありませんか。あてはまるものを1つ選んでください。

※「食育」とは、心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

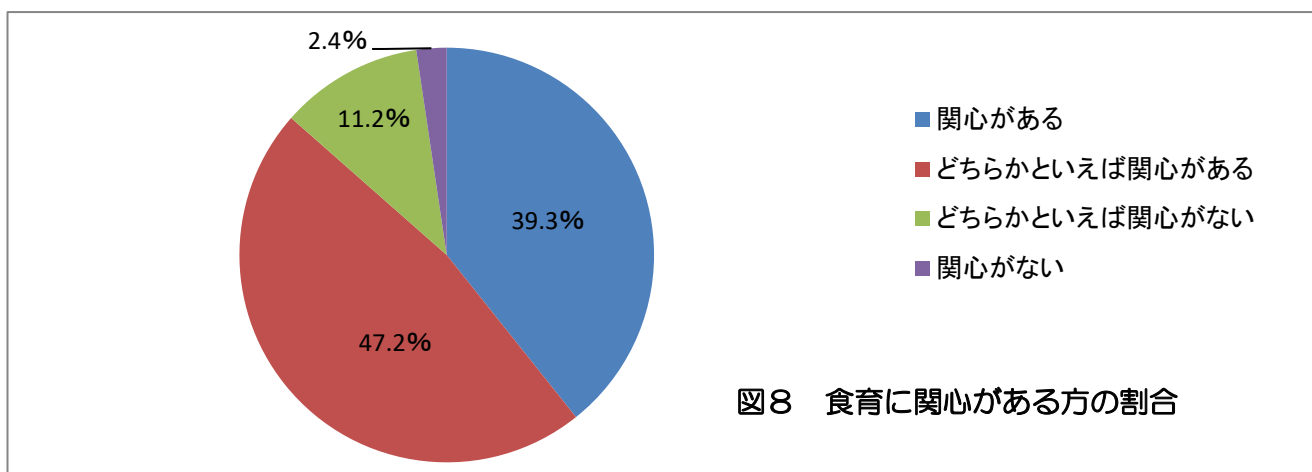


図8 食育に関心がある方の割合

Q6では「食育」に関連する内容について質問させていただきました。

Q6で食育に「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答された方は合わせて698人(86.5%)で、多くの方が食育に関心を持っていることがわかりました。

## Q7 日本型食生活について

※「日本型食生活」についてお聞きします。あなたは「日本型食生活」という言葉をご存じでしたか。あてはまるものを1つ選んでください。

※「日本型食生活」とは、昭和50年代ごろの食生活のこと。ごはんを主食としながら、主菜・副菜に加え、適度に牛乳・乳製品や果物が加わった、バランスのとれた食事です。

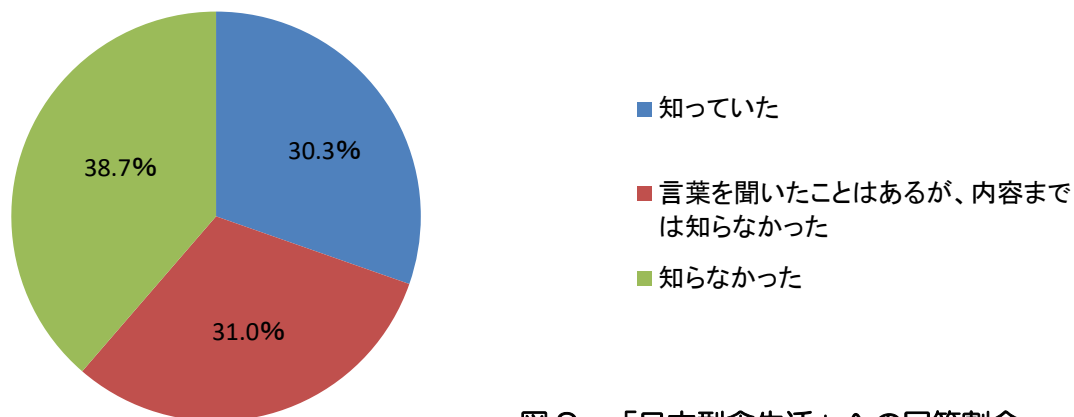


図9 「日本型食生活」への回答割合

主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせることで、1日に2回以上あるのは週に何回ありますか？という質問に対して、最も多かったのは「ほとんど毎日」との回答で、41.4%、次いで多かったのが「週に3～5回」で33.8%でした。

## Q8 バランスよく食べることについて

あなたは、主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）、副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせることで、1日2回以上あるのは週に何日ありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

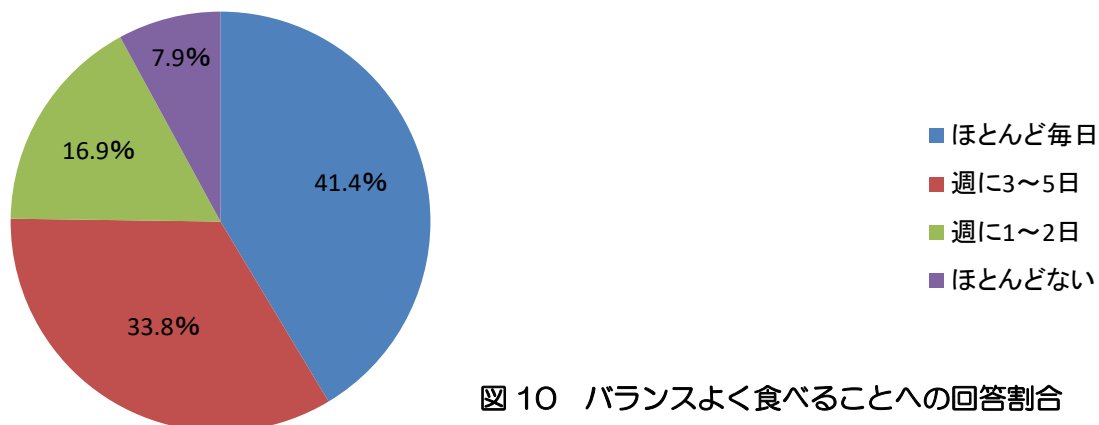


図10 バランスよく食べることへの回答割合

バランスよく食べることについて「ほとんど毎日」と回答された方は 334 名（41.4%）、「週に 3 日～5 日」と回答された方は 273 名（33.8%）で、合わせると 607 名（75.2%）にのぼり、多くの方が週 3 日以上は、バランスよく食べることを意識していることがわかりました。

### Q9 「みえの安心食材」について

県では、みなさんが安心して県産の食材を購入できるよう、環境に気を配り、かつ安全・安心が確認された方法で生産された野菜や果物、きのこ、卵などに「みえの安心食材」マークを表示する、「人と自然にやさしいみえの安心食材表示制度」を実施しています。あなたは、「みえの安心食材」をご存知でしたか。あてはまるものを 1 つ選んでください。

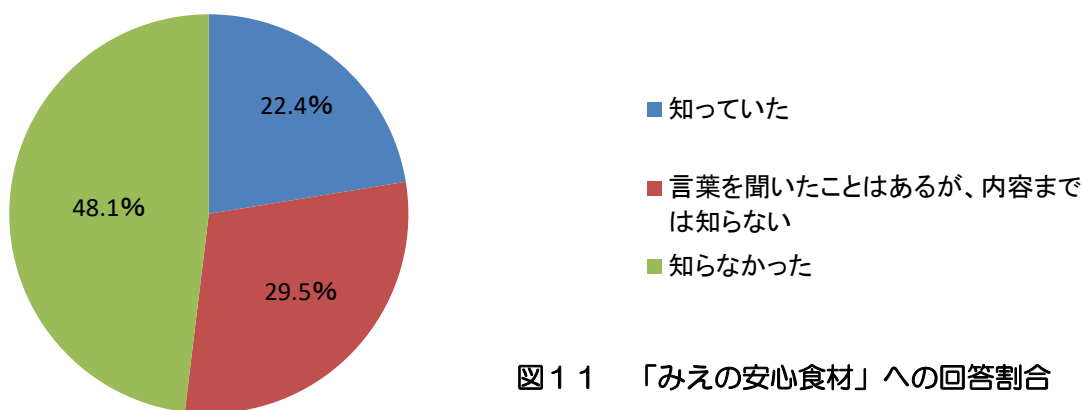


図 1 1 「みえの安心食材」への回答割合

「みえの安心食材」について「知っていた」と回答された方は 181 名（22.4%）、「言葉を聞いたことはあるが、内容までは知らない」と回答された方は 238 名（29.5%）で、「知らなかった」と回答された方は 388 名（48.1%）であることがわかりました。

## Q10 生物多様性について

あなたは、「生物多様性」という言葉をご存知でしょうか。あてはまるものを1つ選んでください。

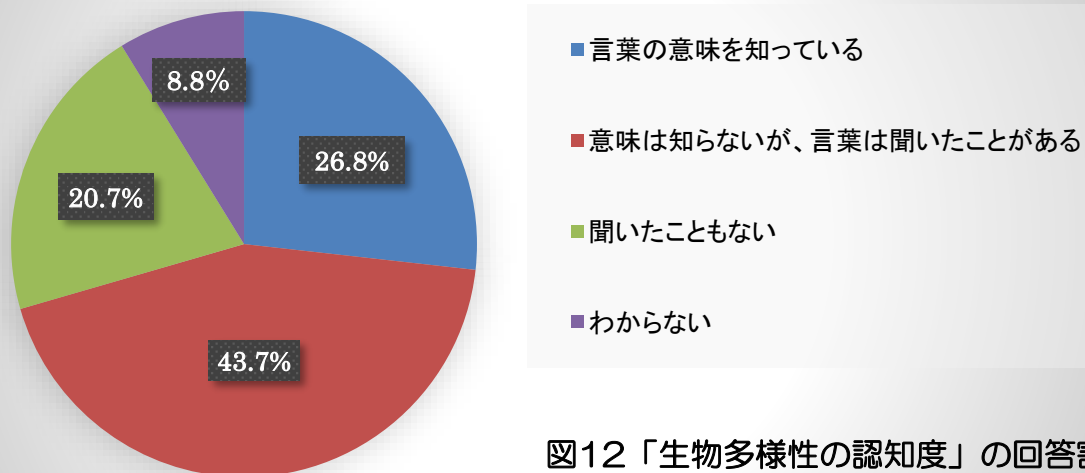


図12 「生物多様性の認知度」の回答割合

「生物多様性の認知度」に関する回答結果の集計は、上表のとおりです。

今回の結果では、生物多様性について「言葉の意味を知っている」と回答された方は 216 名 (26.8%)、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」と回答された方は 353 名 (43.7%)、「聞いたこともない」と回答された方は 167 名 (20.7%)、「わからない」と回答された方は 71 名 (8.8%) で、「生物多様性」という言葉は 70%強の方に認知されていましたが、30%弱の方には全く認知されていないことがわかりました。

同じ選択肢を用いて、平成 28 年度に行われた環境省の「生物多様性認知度等調査」では、「言葉の意味を知っている」、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」の2項目を「認知している」と評価しており、今回の結果で同じ評価を行うと、その合計は 70.5%となります。これは、環境省調査結果の 70.4%とほぼ変わらない結果となっています。

しかし、平成 27 年 5 月に行った同様の県広聴広報課の e-モニター調査で同じ評価を行うと、その合計は 81%となり、今回の評価結果は、平成 27 年度と比べて 10 ポイント落ちている (27 年度比 87%) という結果となりました。

これらの減率の原因については、平成 17 年の「愛・地球博 (愛知万博)」の開催から平成 22 年 COP10 の開催にかけての「生物多様性という概念」の社会的な高揚並びに活性化の期間が終息し、年々、県民の中で「生物多様性という概念」が風化してきているという見方がなされており、いま改めて「生物多様性」の普及啓発のあり方が問われる結果となっています。

このため、今後も引き続き、子どもたちへの学校教育も含めて、「生物多様性」について、もっとわかりやすく解説し、私たちが生物多様性を保全するためにどのようなことを行っていくべきのかなどを広く周知、普及啓発を実施し、「生物多様性」という言葉の認知度の向上に加えて、県民の皆さんの「生物多様性保全」に対する意識の高揚を図るよう努めていきます。



## Q11 地球上のさまざまな生物やそれらが生息できる環境を守る取組について

生物多様性の保全のため、世界各地で地球上のさまざまな生物やそれらが生息できる環境を守る取組が進められています。

あなたは、この取組についてどのようにお考えですか。あてはまるものを1つ選んでください。

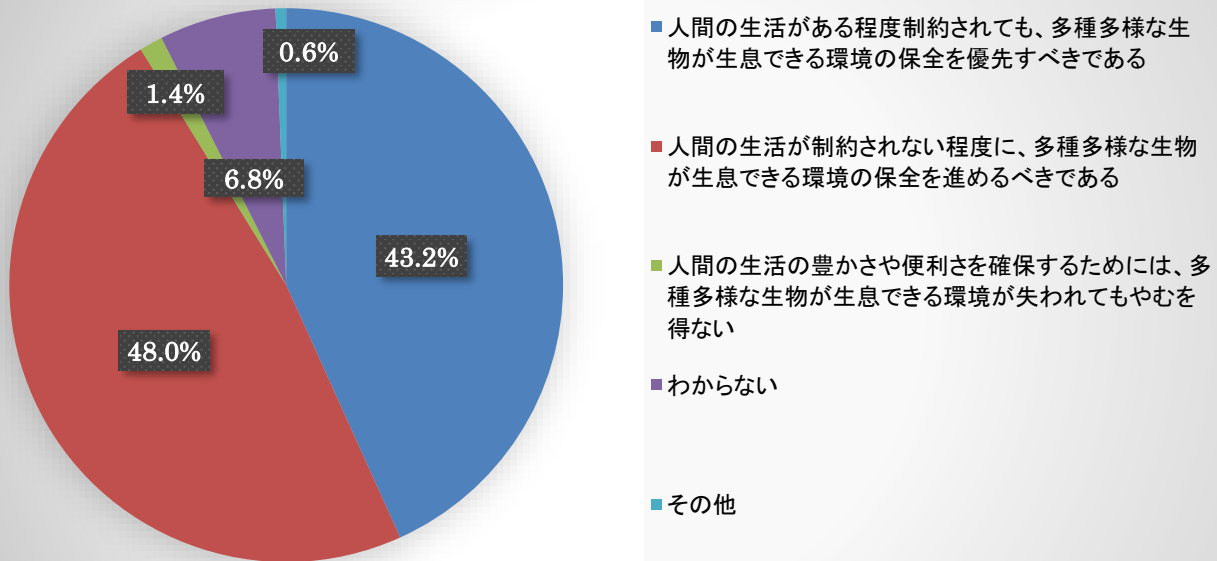


図13 「生物が生息できる環境を守る取組」の必要性に関する回答割合

「生物が生息できる環境を守る取組」の必要性については、「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先すべきである」と回答された方は349名(43.2%)、「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進めるべきである」と回答された方は387名(48.0%)で、人間の生活が制約されない程度も含めると、90%以上の方がたくさんの種類の多くの生きものが生息できる環境を保全していくべきであると考えていることがわかりました。

しかし、「人間の生活」と「環境の保全」のどちらを優先すべきかでこの設問を見てみると、その回答結果は、大きく2分する結果となりました。人間が生活していくうえで、便利な施設を建設するための開発を優先すべきか。多種多様な生物が生息できる豊かな自然環境を保全することを優先すべきか。「どちらが大切ですか。」と問われた場合、便利な生活を知ってしまった私たちは、「どちらも大切である。」と答えてしまいがちですが、「人間の生活」と「環境の保全」のどちらを優先すべきかの「どちらか」により回答した場合は、「人間の生活」を優先すべきと回答した方が、6ポイント多い結果となりました。

なお、選択肢で「その他」を選ばれた方の中には、「時と場合により、環境保全を優先したり、生活の豊かさを優先すべきである。」、「人間の生命・財産が脅かされるなど特別な事情がある場合は、野生種の保護が必ずしも重要であるとは考えないが、我々は人間の幸福のために豊かな生態系があることが望ましいと考えるのだ、ということが原点であり、生物多様性の取り組みも、我々の幸福にとって重要であるから実施すべきなのであって、多様性を害さなくても同じ程度の幸福が得られる場合にはこれを侵してはならないと思う。」など、「ケースバイケース」で考えるべきであるという意見もありました。

これらの結果を見てみると、現在の生物多様性国家戦略では「保護と利用」という言葉を基本理念の一つと

して戦略が進められていますが、この考え方は、三重県民の平均的な考え方と、大きくかけ離れていないと言えると思います。

## Q12 自然の働きについて

私たちは、自然のさまざまな恵みをいただきながら、その恵みに感謝し、自然とともに生きる循環型社会を作りあげてきました。

あなたが、自然の働きについて重要だと思われるものについて、あてはまるものをすべてお選びください。

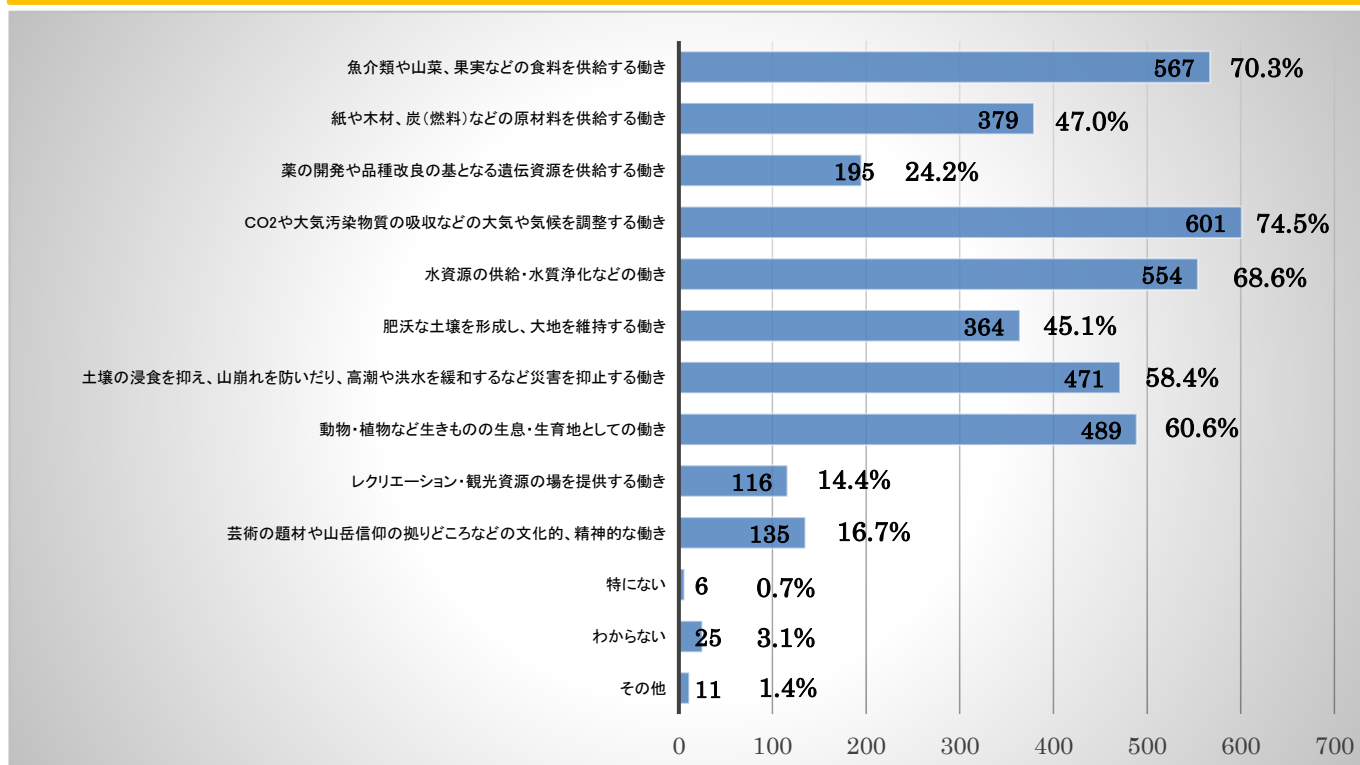


図 14 「自然の働き」について重要だと考える機能の回答内容

「生物多様性」という言葉は、必ずしも全ての「自然の恵み」を表現した言葉ではありませんが、今回「自然の働きについて重要である」と考える機能の中で、「大気や気候を調整する働き」が重要であると回答された方が約 75%と最も多く、続いて「食料を供給する働き」約 70%、「水資源の供給、水質浄化の働き」約 69%、次に「生きものの生息・生育地としての働き」約 61%、そして「山崩れや洪水の緩和などの災害を抑止する働き」約 58%が、回答割合としては多い結果となりました。

また、選択肢で「その他」を選ばれた方の中には、「生態系、広義のエコロジーを保つ働きが重要である。」、「全体的に調和がとれて健全に循環できるのが良いと思う。」などの意見がありました。

これらの結果を見てみると、「自然の働き」について重要であると考えられる機能では、我々の力が及ばない大規模なものとして認識されているものが多いようですが、一見、我々の力が及ばないと感じてしまう自然環境に起きている大きな変化も、私たち一人ひとりの行動が積み重なり、起きているものもたくさんあります。

よって、私たち一人ひとりが、各人において環境に配慮したライフスタイルに取り組んだり、事業者自らが生物多様性保全活動や社会貢献活動を実施していくことが重要でなのです。

私たち一人ひとりの努力が、生物多様性の保全に役に立つという意識を持ち、みんなで力を合わせて、自然環境を守る取り組みを推進していきましょう。

## Q13 生物多様性の保全のために重要だと考えるものについて 1

生物多様性を保全するためには、国、地方公共団体、事業者、NPOやNGOなどの民間の団体や国民一人ひとりがそれぞれの立場から取り組む必要があります。

あなたが、生物多様性の保全のために重要だと考えるものについて、あてはまるものをすべてお選びください。

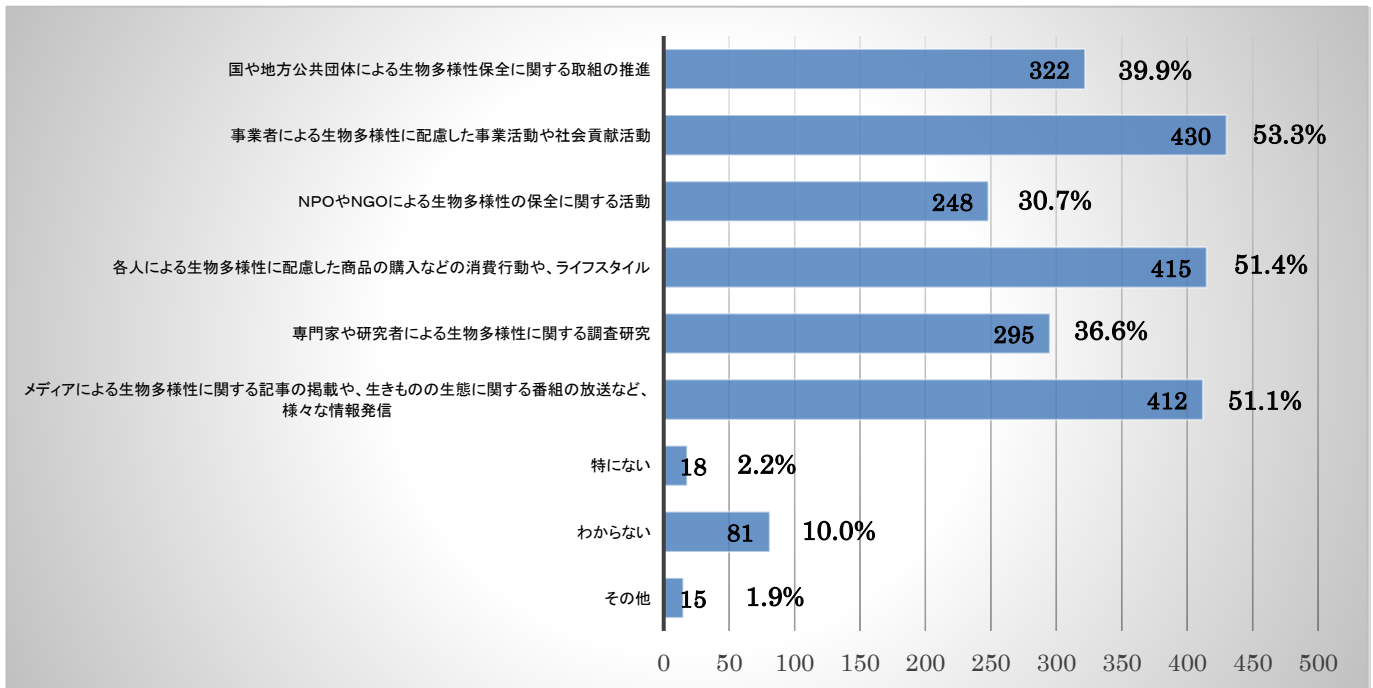


図 15 「生物多様性の保全」のために重要だと考える取組の回答内容

「生物多様性の保全のために重要であると考えられる取組」については、「事業者による事業活動や社会貢献活動」が重要であると回答された方が約 53%と最も多く、続いて「各人による環境に配慮した商品購入やライフスタイルの徹底」約 51%、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のメディアによる情報発信」約 51%が、回答割合としては多い結果となりました。

生物多様性の保全を進めるにあたって、皆さんが期待している団体としては、事業者、個人、メディア、国や地方公共団体（行政機関）、専門家、NPO・NGO 団体という順番となり、国や地方公共団体、大学・研究所等の研究機関、NPOやNGOの民間団体に生物多様性の保全活動や調査・研究実施を求めるのではなく、各人において環境に配慮したライフスタイルに取り組んだり、企業等の事業者自らが生物多様性保全活動や社会貢献活動を実施していくことが重要であると考えている方のほうがたくさんいることがわかりました。

この結果から見ると、生物多様性の保全を推進していくためには、「各主体が、それぞれができる取り組みをできる限り実践していくことが重要である。」とされていますので、県民の皆さんも同じ認識であることが確認できました。

なお、選択肢で「その他」を選ばれた方の中には、「現在の経済優先の社会では、メディアはスポンサーの都合の良い報道しかできないと思う。」「国や自治体が強制力を持って、生物多様性保全を推進していくべきである。」などの意見がありました。

県としても引き続き、具体的な生物多様性保全等に資する施策を広く展開していくことが求められていますので、今回いただいた意見等については、今後の業務の参考として活用させていただきます。

## Q14 生物多様性の保全のために重要だと考えるものについて2

Q13で1を選んだ方にお聞きします。具体的には、どのようなことですか。  
(自由記載)

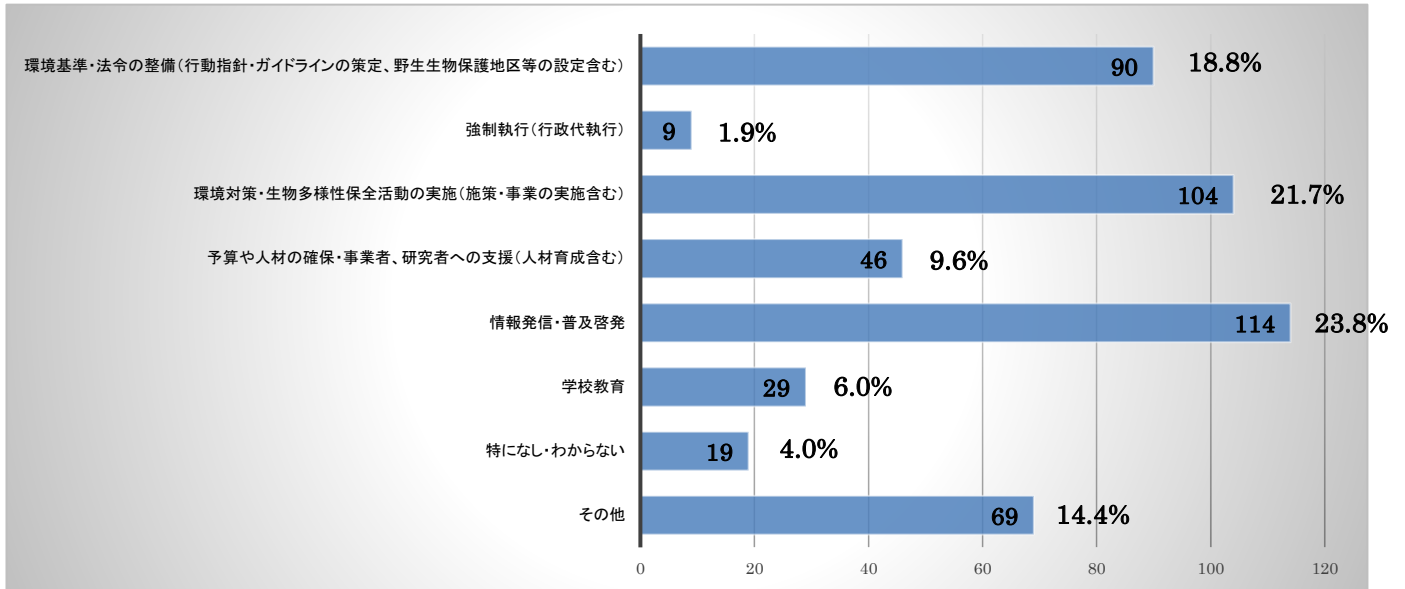


図 16 「生物多様性の保全」のために国や地方公共団体に求める取組の回答内容

Q14では、Q13のうち「国や地方公共団体による生物多様性保全に関する取組の推進」を選択した方に対し、自由記載で「国や地方公共団体に期待する具体的内容」を記載していただきました。実に322名ものたくさんの方から複数の様々な回答をいただき、スペースの関係から、こちらのアンケート結果にすべての回答を記載することはできませんが、今回、回答していただいた意見等については、その全てをリスト化し、今後の業務の参考として活用させていただきます。

なお、「生物多様性の保全」のために国や地方公共団体に求められている取組では、「情報発信・普及啓発」が重要であると回答された方が約24%と最も多く、続いて「環境対策・生物多様性保全活動の実施 (施策等含む)」約22%、「環境基準・法令等の整備」約19%が、回答割合としては多い結果となりました。約30%の方が「子どもたちへの学校教育を含めて、県民への情報発信・普及啓発」が重要であると回答しており、生物多様性について、もっとわかりやすく解説し、私たちが生物多様性を保全するためにどのようなことを行っていくべきなのかなどを広く周知、普及啓発を行うべきであると考えていることがわかりました。

また、約20%の方が、「環境対策や生物多様性保全の施策・事業の実施も含めて、国や地方公共団体自らが率先し、環境対策・生物多様性の保全活動を実施していくべきである。」「希少野生生物等の保護地区の指定 (ゾーニングの策定) や生物多様性保全に関するガイドライン、行動指針等の整備も含めて、環境基準や法令等をもっと整備していくべきである。」と回答しており、過度な開発から、野生生物や自然環境を守るために一定の規制強化を図ってほしいという考えや、地方自治体自らが環境対策・生物多様性保全活動を実施し、事業者や個人等を主導して、生物多様性保全に関する取り組みの実践してほしいという考えを持っていることがわかりました。

更に、選択肢で「その他」を選ばれた方の中には、「マイクロプラスチック等の海洋ゴミに関する環境問題など、日本だけでは無理な取組に関して、国家間での連携や調整等を行ってほしい。」「国や地方公共団体が無駄な開発を強制的にやめさせてほしい。」「開発にあたって、経済的、政治的な理由で無駄、無理なものを作らないでほしい。」「原子力発電所を廃止してほしい。原子力に頼らないエネルギー発電に切り替えていく



べきである。」など様々な要望や意見をいただきました。

県としても引き続き、具体的な生物多様性保全等に資する施策を広く展開していくことが求められていますので、今回いただいた意見等については、今後の業務の参考として活用させていただきます。

### Q15 生物多様性の保全に配慮したライフスタイルについて

あなたは、生物多様性の保全に配慮したライフスタイルとして、これからどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

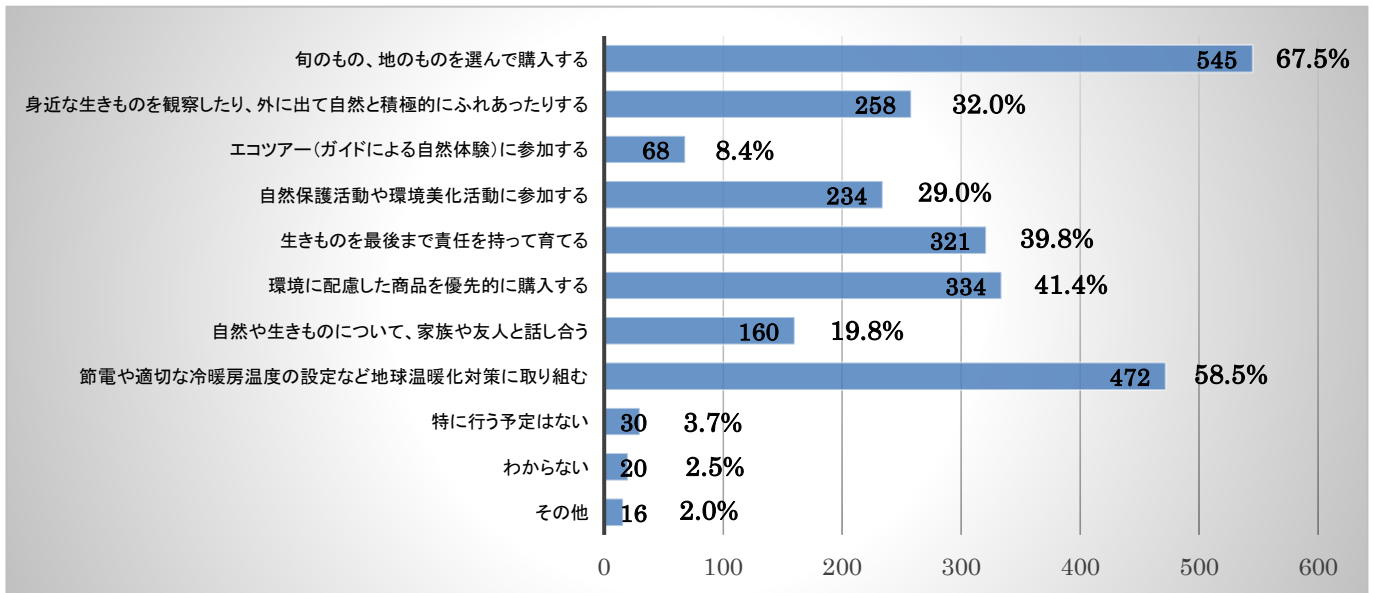


図 16 「生物多様性保全に配慮したライフスタイル」の回答内容

生物多様性の保全を進めるには、行政や事業者はもちろん、私たち一人ひとりの取り組みがとても重要となります。この設問では、皆さんがこれからどのような方向で取り組んでいきたいかを伺いました。

「旬のもの、地のものを選んで購入（地産地消）」と回答された方が約 68%と最も多く、続いて「節電などの地球温暖化対策への取組」約 59%、「環境に配慮した商品を優先的に購入」約 41%、「生きものを最後まで責任を持って育てる」約 40%が、回答割合としては多い結果となりました。

このように、改めて私たち一人ひとりが「少しずつみんなで取り組んでいく」ということが、とても重要なのだということを実感させられる結果となりました。

また、「自然保護活動や環境美化活動」、「生きもの観察会への参加、自然とのふれあい」に関しても、約 30%の方がこれから実施していきたいと回答しており、約 3割の方が野外に出て、自ら進んで、環境美化活動や自然とふれあう活動を行っていきたくて考えていることがわかりました。

また、「その他」の回答の中には、「エネルギーの循環を考慮した暮らしを考える。」、「水資源や土を必要以上に汚さない。」などの意見がありました。